

グループワーク(1～15グループ)で共通する課題や目指したいカフェ等について、取りまとめました。

1 認知症カフェ活動の中での共通する課題

- ・担い手不足（若い人は就労している、他の活動も抱えている、活動の場を探すのが大変）
- ・参加者が集まらない など

2 目指したいカフェ（一部抜粋）

- ・自分が参加したいと思えるカフェ
- ・当事者に役割を持って参加してもらえるカフェ（得意なことをやってもらう等）
- ・参加者が何をしたいか叶えられるカフェ
- ・地域の人が自由に来られる場、介護者をケアできる場 など

3 その他（アイデア 他）

- ・他のカフェに参加しているキャラバン・メイトが手の空いている時に他のカフェを手伝える仕組み
- ・「地域でカフェの連絡会をしてほしい」は、多数意見がありました



講師の方からのコメント・メッセージ！！

◆澤岡先生

「認知症カフェという居場所の在り方は多様であってよい」。これを、研修に参加された多くの方が感じたのではないのでしょうか。そうなのです、大人数が集まる、週に何回もすごいプログラムをやるカフェをみなが目指す必要ないのです。大事なのは、居場所を求める人の近場に、多様な場がたくさんあり、参加する処を選び取れることではないのでしょうか。そのためにも、今回をきっかけに、近場にあるカフェ同士がなじみの関係になっていくための工夫を考えてみませんか？

◆都筑区認知症カフェ連絡会

皆様のお悩み、私たちも同じ経験をしております。確かに現時点では「認知症」と付けると敬遠されることは事実です。「予防」と付けて、認知症になりたくない方々を招き入れようと考えたりもしました。けれども認知症カフェは理念のひとつとして「認知症の偏見をなくすこと」を掲げていて、「なりたくない」「なったら人生終わりだ」というスタート地点を少しずつでも変えて行かねければ、いつまで経っても認知症になっても暮らしやすい世界は叶わないのだと、肌で感じてもあります。表向きにはどんな形でも構いません。ですが運営の核として、地域・家族・当事者・専門職、誰もが当事者として正しい認知症への理解が染み込み育っていくよう、情報提供やサポート体制を整え繰り返し伝えていく必要があります。

～最後に健康福祉局高齢在宅支援課より～

このたびは、研修への参加ありがとうございました。皆さまからいただいたご意見を参考に、今後の認知症カフェ支援につながるよう取組を進めていきます。